

# 図書波下り

第 63 号

平成12年12月28日  
愛媛大学附属図書館

## 目 次

図書館と学術雑誌の電子化……………	1	学術講演会を開催……………	6
シリーズ学部資料室紹介(3)教育学部①…	3	本館からのお知らせ……………	7
平成11年度科学研究費補助金の成果報告書 ……………	4	医学部分館からのお知らせ……………	7
附属図書館本館と医学部分館にDDS (Document Delivery Service) を導入…	6	附属図書館委員会……………	8
農学部分館長交替……………	6	人事異動……………	8
		図書館日誌(会議, 研修)……………	8

## 図書館と学術雑誌の電子化

安部 武美

### マルチメディアの発達

最近の携帯電話の普及はめざましい。20歳前後の若者である学生にとっては、携帯電話を持たなければ、お互いの交流に取り残されるかのようにほとんどの学生が所有している。携帯電話と同じようにパソコンが情報の収集源、研究のデータ処理、卒業論文作成のためのワープロなどとして必需品になってきた。

このような高度情報通信社会の発展に伴い、図書館の世界もその影響を大きく受けるようになったことが伺える。図書館のネットワーク化であり、マルチメディア化であり、デジタル・ライブラリ化である。学術出版の世界では出版コストの上昇、出版要求につながる研究成果の増大、研究予算の逼迫による出版物購入の減少などの打開策として、電子

出版への期待が高まってきた。

### 学術誌の電子化

近年の図書の電子化は、CD-ROM等のパッケージ系だけでなく、インターネット上で流通するネットワーク系電子出版物も非常に勢いで増加しているようである。

最近の愛媛大学附属図書館のホームページの表題部分に「電子ジャーナル等無料トライアル」の案内があるが、ジャーナル等の電子化が着実に進んでいることを表している。

農学・農業工学の分野で研究活動をしている私の周辺でも、所属学会の発行する会誌がこの過渡期にある。アメリカの農業工業会では、学会発表が数千課題に及び、講演集が分厚くなり取扱いが困難になることもあって、従来は発表者が200部用意し、大会当日、決められた場所(机上)において、関心のある人

に提供するという方法を探っていたが、1997年からCD-ROM 2枚に納めた電子化を実施した。

国内(農業機械学会)では、学会誌の投稿規定を整備し、電子化した原稿による案が提出されているがまだ実現されていない。これが可能になれば電子化も一気に進むと思われる。

### 文献の収集

このような電子化と情報通信ネットワークの発展は、距離や時間の制限を越えた図書館の利用を可能にしつつある。つまり、愛媛でも地球の裏側でも、家庭にいても、好きなどころで好きなきにアクセスできるのも実現不可能な夢ではなくなってきた。

研究者が図書館を利用するに当って、文献の収集にあてる割合はかなり多い。

学生の指導に当っても、研究のテーマがほぼ決まると、そのテーマに関連する文献を集めて貰う。集めた文献の参考論文の項からさらに役立ちそうなものを収集し、その輪を広げてゆき、過去の研究例や研究水準を知る。

1990年頃から、連合大学院へ世界各地から留学生を受け入れ、国際化されるに従って、外国のジャーナルに投稿する機会も増えて、外国文献の収集が必須になった。

### 文献の選定

近年の大学への予算の割当ては厳しくなっており、さらに独立行政法人化に向けて、平成13年度から研究費の大幅な削減が取り沙汰されている。図書館経費も例外ではなく、予算削減に伴って、学部からの援助も厳しくなると予想される。

農学部分館では、限られた予算のなかで、図書(継続図書、参考図書、学生図書)、教官推薦の学生用図書、雑誌等を選定、購入してきたが、ここにきて、特に雑誌類の選定についての見直しが迫られている。

近年、農学分野でも学問が非常に細分化し、深化し、さらには学際化した結果、学術資料

の種類が量産化されている。取るに足らない資料も量産されている、という批判もあるけれども、学問の専門化の結果は、特定の限られた研究者を対象とした小部数発行の逐次刊行物を生み出している。これらは採算という点から自ずと価格は高くなる。

限られた予算で、図書や雑誌をどのように選定するか、難しい問題である。

附属図書館のホームページの電子ジャーナル利用上の注意にあるように、利用は無料であるが、本学のどこかの学科・講座で最低1部の雑誌購読がなければならぬこと、中止した場合は利用も出来なくなること、などが挙げられてる。学術雑誌は研究室間の連絡が充分でないせいか、同じ学科でも重複して購入している例が多く見られる。

附属図書館のこの規則に従えば、選定に当って、コンテンツなどの情報をしっかり把握しておけば、1部ずつを効率よく購入するのが良さそうである。

近い将来文献の収集方法はどのようになるのであろうか。このような学術雑誌を電子化したり、文章のみならず、図、映像、音響などを含むマルチメディア図書の収集、蓄積、配布をデジタル信号の形態で総合して扱う「デジタル図書館」が出現し、そこから収集することになろう。デジタル図書館は、情報資源の提供者と、利用者が高速大容量ネットワークを介して情報を授受することによって成立するが、現在、一部の出版社が手がけているように、情報資源の提供者は大小、公私など種々の形態のものが出現する可能性がある。

いずれにしても、学術雑誌の選定、購入、文献の収集方法などに与える電子化の影響は大きいと思われる。

(あべ たけみ 附属図書館農学部分館長)

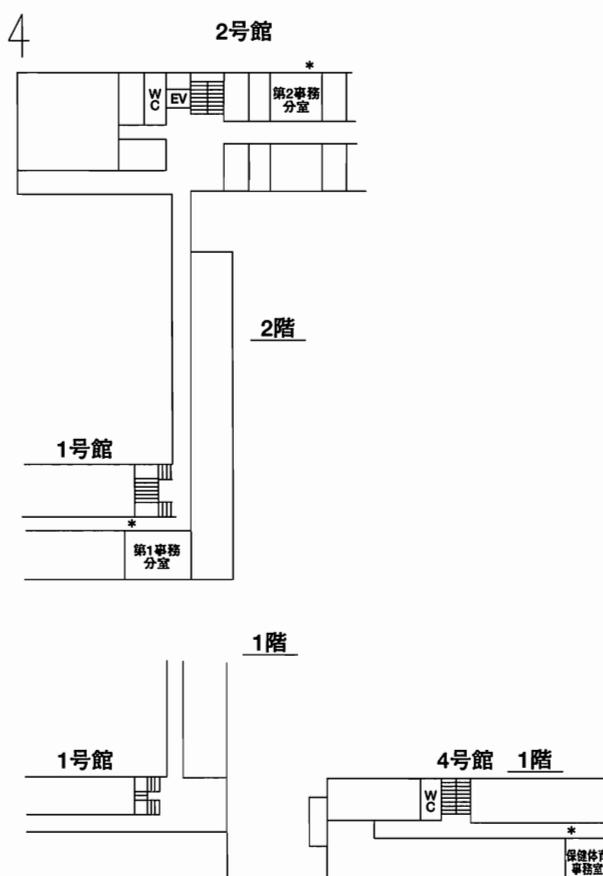
**シリーズ 学部資料室紹介 (3) 教育学部①**

今回は、教育学部の次の講座、美術教育、保健体育、家政教育、障害児教育、学校教育(第一事務分室担当)の資料の利用について紹介します。

教育学部の図書は基本的に各教官研究室に所蔵されています。また、図書館の蔵書検索システム(OPAC)端末の所蔵表示も各教官名で表示されています。教育学部の所蔵図書を利用する時は、最初に附属図書館本館1階の資料サービス係カウンターに、その旨を申し出て職員の指示に従って利用してください。貸出等利用条件は、講座によって異なることがあります。

雑誌は、OPACの所蔵表示が、講座名で表示されます。図書と同じく、資料サービス係カウンターに申し出て、職員からの案内を受けてください。

教育学部建物配置図



所蔵表示・担当事務分室対照表

講座名	雑誌OPAC所蔵表示	担当事務分室
美術教育	育・美一	第一事務分室
保健体育	育・保健, 体育	第一事務分室
家政教育	育・家庭	第一事務分室
障害児教育	育・聴言, 養護	第一事務分室
学校教育	育・教育, 心理	第一事務分室

(注)美術教育は、「育・美術一」と「育・美術二」にわかれています。「育・美術二」と表示される図書・雑誌は、第二事務分室が担当です。

(注)保健体育も、「育・体育」と「育・体育二」にわかれています。「育・体育二」及び「養・保体」と表示されている図書・雑誌は、教育4号館1階の保健体育事務室が担当事務室になります。

各講座所蔵資料概要

講座名	所蔵図書数(冊)	所蔵雑誌数(種)
美術教育(美術一)	1,780	32
保健体育(保健)	1,246	14
(体育)	4,468	56
家政教育(家庭科)	7,721	72
障害児教育(聴覚・言語)	3,451	74
(養護)	2,267	39
学校教育(教育学)	7,382	99
(心理学)	7,489	32

平成11年度科学研究費補助金の成果報告書

本学における平成11年度科学研究費補助金の成果報告書を図書館に備え付けました。

利用については資料サービス係へお申し込みください。

( ) 内は課題番号

**基盤研究(A)(2)**

表皮Stem Cellとその臨床応用研究

研究代表者：橋本公二(08407021)

**基盤研究(B)(1)**

カンキツ類の栄養・生殖両生長の調節に果たす根系の役割の解明

研究代表者：門屋一臣(09460021)

**基盤研究(B)(2)**

Mussel Watch:Marine Pollution Monitoring in Asian Waters

研究代表者：田辺信介(09041163)

四川省における園芸作物の生産性向上に関する研究

研究代表者：加藤正弘(09045068)

数値等角写像と2次元ポテンシャル流解析への応用

研究代表者：天野要(09440081)

有機ケイ素化合物の触媒的転換反応に関する研究

研究代表者：山口力(09450298)

心臓移植におけるB細胞抑制効果とそのメカ

ニズムの解明に関する研究

研究代表者：河内寛治(09470279)

人為起源物質による深海生態系の汚染と影響に関する比較生物学的研究

研究代表者：田辺信介(09480124)

リンパ球に認められる第3のタイプの細胞死の分子機構と特異的免疫抑制法への応用

研究代表者：浅野喜博(09557048)

レーザ熱源を用いた複合ワイヤーからのTiAl金属間化合物の創成

研究代表者：西田稔(10450275)

分子認識能を有する両親媒性分子集合体としての機能性ベシクルの創製とその機能

研究代表者：加藤敬一(10450297)

遺伝子組込み人工皮膚大量作成システムの研究

研究代表者：橋本公二(10557081)

新しい概念による中枢疾患治療法の基盤開発

研究代表者：中村洋一(10558114)

**基盤研究(C)(2)**

遺跡出土の焼成粘土塊・焼成剥離土器片からみた弥生土器の生産・供給形態

研究代表者：田崎博之(09610406)

陸棚斜面から豊後水道底層への冷水塊の流入に関する研究

研究代表者：武岡英隆(09640525)

沈み込み帯におけるシステムダイナミクス

研究代表者：榊原正幸 (09640572)

不斉記憶法を用いる光学活性異常アミノ酸合成法の開発

研究代表者：宇野英満 (09640638)

ニューロン型導電性高分子の電気化学的合成と機能素子化に関する研究

研究代表者：藤井雅治 (09650360)

セラミックスにおける相変態および人工界面の結晶学的研究

研究代表者：仲井清眞 (09650763)

微生物を利用した荒廃地の緑化・樹林化に関する研究

研究代表者：江崎次夫 (09660163)

遠赤外線を利用した椎茸乾燥機の開発研究

研究代表者：安部武美 (09660274)

高精度脳機能マッピングのためのシステムおよびソフトウェアの開発に関する研究

研究代表者：村瀬研也 (09670939)

現代中国文学と「諷刺」に関する研究

研究代表者：弓削俊洋 (10610443)

アダマール行列の群論的構成法と計算機

研究代表者：庭崎隆 (10640031)

非線形偏微分方程式に対する有限要素解の誤差解析

研究代表者：土屋卓也 (10640123)

放物型方程式の解の空間臨界点と零点の挙動

研究代表者：坂口茂 (10640175)

価数相転移化合物YbInCu<sub>4</sub>系の高圧下NQR

研究代表者：平岡耕一 (10640351)

結晶中での選択的分子移動と不斉反応

研究代表者：宮本久一 (10640560)

セレン化銅インジウムのエピタキシャル成長、価電子制御と光検出器応用に関する研究

研究代表者：白方祥 (10650012)

微小重力下における乳化燃料液滴燃焼の火炎構造解明

研究代表者：山崎博司 (10650215)

表面電離式小型高性能正イオン源の開発

研究代表者：河野博之 (10650311)

スミア変換を用いた電子透かし法に関する研究

研究代表者：大上健二 (10650369)

実際の道路網上でドライバーの経路選択行動に関する実験的研究

研究代表者：朝倉康夫 (10650529)

土研モデルとS WMMを組合せた都市下水道の分布型汚濁負荷流出モデルに関する研究

研究代表者：渡辺政広 (10650541)

電気伝導性高融点ランタンクロマイトの高温熱電能

研究代表者：田中寿郎 (10650667)

ウォーターポテンシャルのバランスを利用した木材中の透過径分布の評価

研究代表者：林和男 (10660165)

感潮・浅海域の水環境形成に及ぼす混合・拡散機構の解析

研究代表者：大橋行三 (10660229)

乾季を伴う気象条件下での流域蒸発散特性に関する研究

研究代表者：高瀬恵次 (10660230)

廃棄石炭灰のゼオライト化材による青果物貯蔵庫脱臭・保湿システムの開発研究

研究代表者：鶴崎孝 (10660250)

感染・免疫・発癌と関連する細胞内蛋白、プラスチンの総合的研究

研究代表者：四宮博人 (10670261)

B型肝炎ウイルスキャリアのワクチン療法に果たす樹状細胞の役割

研究代表者：恩地森一 (10670481)

in situ PCRによるリンパ性樹状細胞内の肝炎ウイルスの同定と抗原提示能の解析

研究代表者：道堯浩二郎 (10670482)

肥大型心筋症からうっ血性心不全に至る心臓組織に及ぼすアポトーシスの関与

研究代表者：濱田希臣 (10670665)

肝臓へのミオグロビン遺伝子の導入

研究代表者：本田和男 (10671120)

凍結保存allograftによる肝動脈、上腸間膜動脈同時再建に関する研究

研究代表者：佐藤元通 (10671194)

脳血管攣縮における早期カルシウム過剰流入の役割について

研究代表者：榊三郎 (10671306)

体外循環を用いた急速低体温療法による心肺脳蘇生の研究

研究代表者：津野恭司 (10671419)  
ラット異系間膀胱移植モデルの作成と生着率，組織学的検討

研究代表者：大岡啓二 (10671480)  
振動聴覚に関する実験的研究

研究代表者：佐藤英光 (10671595)  
可搬型衛星通信装置を用いた大規模災害時のデータ通信システム

研究代表者：越智元郎 (10672127)  
要介護高齢者に対する介護者の満足度と福祉サービス利用との関係

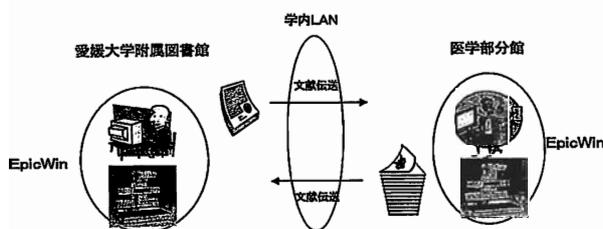
研究代表者：小野ツルコ (10672210)  
ミクログリア活性化を抑制するオピオイドの役割

研究代表者：中村洋一 (10680719)  
マイクログリアが分泌する神経細胞保護因子の分離精製と特性の決定

研究代表者：田中潤也 (10680745)

### 附属図書館本館と医学部分館にDDS (Document Delivery Service) を導入

本館及び医学部分館にEPICWIN7000を導入し，本館と医学部分館の間でDDSの試行を始めました。このサービスは，利用者から依頼のあった文献を電子化して学内LANにより相手館に伝送するシステムです（下図参照）。これまでの学内便に比べ文献入手が格段に速くなりました。ただし，研究室貸出の資料については，従来どおり電子複写をして学内便で送っています。



### 農学部分館長交替

逸見彰男農学部分館長の任期満了に伴い11月1日付で，安部武美教授（農産機械学）が新しく農学部分館長に就任されました。任期は平成14年10月31日までです。

### 学術講演会を開催

#### ●電子ジャーナルに関する講演会

9月18日(月)，(株)紀伊國屋書店OCLCセンター長 新元公寛氏，千葉大学附属図書館情報管理課長 平元健史氏を講師に迎え講演会を開催しました。

従来冊子体であった学術雑誌をコンピュータ・ネットワークを介して電子的に提供する電子ジャーナルが実質化してきている現在，新元氏は，「商業ベースから見た電子ジャーナルの現状－ECOを中心として－」をテーマに電子出版業界の現状等について，平元氏は，「電子ジャーナル・コンソーシアムの形成について－JIOC/NUを中心に－」をテーマに複数の大学で共同して利用をはかるコンソーシアム形成の必要性について話されました。

外国学術雑誌のオンラインジャーナル化が急速に普及する一方，出版社による価格政策は流動的であります。

このような状況下で，外国雑誌の購入は研究費によるものが多く，大学予算項目の構造的な変化と価格の高騰により購入の安定性が危機的状況にあります。その対応策として学内の重複購読を減らし，共同でオンラインジャーナルを利用できるしくみを作っていくことが必要となってきております。

全学的な共同利用を前提とした購読システム導入と外国雑誌収集のあり方について考えさせられる有意義な講演会となりました。

### ●大学図書館の戦略に関する講演会

10月26日(木)、笹川富山大学附属図書館事務部長を講師に迎え、「新たな大学図書館経営体制に向けて—大学図書館生き残り戦略—」をテーマに講演会を開催しました。

笹川氏は、

- 1 組織体制と事業体制
- 2 事業計画
- 3 Cost意識とシステム化

についてわかり易く講演されました。

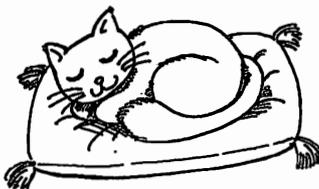
大学図書館の今後のあり方を考える上で多くの示唆と提言があり、大変有意義な講演会となりました。

### 〔本館からのお知らせ〕

#### パソコンの利用について

図書館本館の2階・3階に設置していますパソコンの利用方法が変わりました。パソコンを利用するには、ID(アカウント)が必要です。

学生の方は、「情報科学(共通基礎教育科目)」で配布されたID(アカウント)を使用してください。まだ、ID(アカウント)を取得していない方は、総合情報処理センター事務室(1F)に申し込んでください。



### 〔医学部分館からのお知らせ〕

医学部分館では下記のデータベースおよびブックコピー機を導入しました。ご利用ください。

#### 1. 全文データベース「ProQuest Medical Library」について

ProQuest Medical Libraryは、米国BHIL(Bell&Howell Information and Learning)社がインターネットで提供する医学関連雑誌の全文データベースです。臨床系商業誌を中心とした約200誌の全文が研究室からインターネットブラウザソフトで閲覧できます。

#### 2. 看護文献データベース「CINAHL」について

CINAHL(Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature)は、看護文献索引誌に対応した看護・医療技術関連の文献データベースです。図書館でしか利用できませんでしたが、平成12年11月からインターネット版に移行しましたので、研究室からでも利用可能になりました。収録範囲は1983年から現在まで、同時アクセスは4名です。収録対象誌は看護・保健関連分野の約500誌および「Index Medicus」に収録された生物医学関係の約3,100誌です。雑誌以外にも、関連の図書・博士論文・会議録なども収録されています。

#### 3. ブックコピー機EPICWIN7000の導入

このコピー機は、雑誌・図書を上向き(見開き)でコピーできます。また、DDS(Document Delivery System)に対応していますので、ネットワークを介して、本館・分館間で電子文献のやりとりが可能になります。

**〔附属図書館委員会〕**

平成12年度第3回附属図書館委員会

日時 平成12年10月25日(木) 14:35～

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 平成12年度第3回附属図書館将来計画委員会報告
2. 平成12年度第1回附属図書館自己点検・評価委員会報告
3. 平成12年度学生用図書選定結果報告
4. 学長裁量経費について
5. 附属図書館学術講演会について
6. 分館近況報告
7. その他

[協議事項]

1. 「愛媛大学附属図書館デジタルコンテンツ研究会」の設置について
2. 「愛媛大学附属図書館電子図書館的機能検討委員会内規」の廃止について
3. 「愛媛大学附属図書館利用規程」の一部改正について
4. その他

**〔図書館日誌(会議, 研修)〕**

- 9月18日 平成12年度第1回附属図書館学術講演会
- 10月12日 国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議(広島) 農学部分館情報サービス係長出席
- 10月17日 平成12年度第2回農学部分館運営委員会
- 10月19日 マックス・クワック駐大阪・神戸アメリカ総領事館領事来館
- 10月19日 第36回日本医学図書館協会中国・四国部会総会(広島) 医学部分館資料情報係長出席
- 10月25日 平成12年度第1回附属図書館自己点検・評価委員会  
平成12年度第3回附属図書館委員会  
平成12年度第4回附属図書館将来計画委員会
- 10月25日 第41回中国四国地区大学図書館研究集会(徳島) 学術情報係長・...
- 10月26日 館内講演会
- 11月6日 平成12年度大学図書館職員講習会(京都大学) 9日
- 12月1日 平成12年度第2回附属図書館学術講演会
- 12月4日 文部省図書館関係ヒアリング(岡山) 事務部長・情報管理課長・情報サービス課長出席
- 12月5日 中国四国地区国立大学附属図書館事務部課長会議(岡山) 事務部長・情報管理課長・情報サービス課長出席
- 12月7日 国立大学図書館協議会シンポジウム 西地区(名古屋大学) 図書館専門員出席
- 12月19日 平成12年度第3回農学部分館運営委員会